

令和5年度（2023）

学校関係者評価報告書

学校法人穴吹学園

穴吹ビジネス専門学校

学校関係者評価報告書

学校法人穴吹学園 穴吹ビジネス専門学校 学校関係者評価委員会は、令和 5 年度学校自己評価に基づく学校関係者評価を実施いたしましたので、ご報告いたします。

令和 6 年 3 月 26 日
学校法人穴吹学園 穴吹ビジネス専門学校
学校関係者評価委員会

1. 学校関係者評価の目的

より実践的な職業教育の質を確保するため、教育活動の観察や意見交換等を通じて穴吹ビジネス専門学校の自己評価の結果を評価することを目的とした委員会を置く。

委員会は、穴吹ビジネス専門学校が行った教育活動及び学校運営の状況についての自己評価の結果を踏まえた本校の評価を行い、その結果を評価委員に報告する。

2. 学校関係者評価委員会

(委員)

高橋 宏之	企業等委員	ツー・プライ(株) 取締役	
阿部 晋士	企業等委員	あべ動物病院 院長	当日欠席 (別日程にてヒアリング)
石井 康夫	企業等委員	福山市医師会 事務局長	
田島 建彦	元高等学校関係委員	元高等学校校長	
天野 博士	卒業生代表委員		
森島 裕策	卒業生代表委員		
曾根 大地	卒業生代表委員		

(学校教職員)

田渕 照之	穴吹ビジネス専門学校	校長	
信岡 誠三	穴吹ビジネス専門学校	副校長	
山下 保	穴吹ビジネス専門学校	部長	※司会進行
松浦 生幸	穴吹ビジネス専門学校	事務局長	
高橋 忍	穴吹ビジネス専門学校	課長	
藤井 智之	穴吹ビジネス専門学校	課長	
土居 正明	穴吹ビジネス専門学校	課長代理	
林 勇樹	穴吹ビジネス専門学校	課長代理	

3. 学校関係者評価委員会実施日時

開催日時 令和 6 年 3 月 26 日 (火) 18:30~19:30

開催場所 福山校東町校舎 C 棟 404 教室

4. 学生動向 令和5年度穴吹ビジネス専門学校学生数状況

2023年度入学数は272名、2023年度学生数（R5.4.1時点）は577名でスタートしました。そして、2023年度卒業生数は227名でした。

今年度中の休学者9名、退学者28名です。そのため、年度末時点の在学者数は540名となりました。休学率は1.6%、退学率は4.9%となり、昨年度末の退学率5.7%と比較して減少はしています。ただ、目標は3%以内としているため、残念ながら目標未達となりました。

今年度3月での卒業生数227名と比較し、3月25日時点の来年度新入学予定者数は222名のため、来年度は5名程度少ない人数での始動となります。最終入試受験者の中で、手続きが完了していない方が数名いるため若干の増加もあり得る状況ではあります。

今後の課題として、学生数の維持のために休学者数を減らすことなどが挙げられます。

5. 募集学科

次年度の募集について各学科今年度募集と大きな変更はありませんが、国際ビジネス学科は留学生を対象としてコンピュータソフトやマネジメントについて学び、総合的な人材を養成していく学科として新設しました。これに伴いこれまで同様の教育を行っていた国際ITエンジニア学科が新たにCADなどを取得する学科として始動していくこととなりました。

その他については多少の名称変更はありますが、概ね変更はなく募集を行ってまいります。

6. 各学科の取り組み紹介

コロナ禍も明けたことで、各学科が様々な取り組みをしており、その活動をまとめたものを資料として同封しておりますのでご確認ください。1枚目の中では特にネット動画クリエイター学科の取り組みについて紹介させていただきます。こちらは福山税務署からの依頼でe-TaxのPR動画制作に携わったものでございます。インターネットを介して確定申告ができるものをアピールするという事で、福山市内の各所でデジタルサイネージを中心に広告が放映され、国税庁のYouTubeチャンネルでも配信されました。

次に、2枚目のCG・Webデザイン学科/グラフィックデザイン学科については、ばらの日ポスターやおのみちグルメマップなどで採用され、市役所での掲示や冊子として配布されるようなこともありました。また、西日本高速道路株式会社からの依頼でゴミのポイ捨てマナーを啓発する横断幕を作成し、吉備SAに2024年8月から掲載予定となっております。

3枚目、医療事務クラーク学科については日本医療秘書学会（全国大会）へ演題参加し、学生が多くの学びを得ております。

最後4枚目の動物看護総合学科/動物健康美容学科では、芦田川の河川敷でわんわんフェスタという参加者1000名を超えるイベントを実施しています。こちらは毎年実施しており、次年度も開催予定となっております。イベント詳細についてはHPで随時更新しておりますので、是非ご覧ください。

7. 修学成果報告

昨年度と比較して、情報システム学科が受験している「経済産業省 基本情報技術者試験」で20.5%の取得率となりました。昨年度は全国平均を大きく下回った結果でしたが、今年度は全国平均レベルに到達しております。今回の結果を受けて、今後も更なる取得率向上を目指して指導力向上のための努力を続けていきます。

愛玩動物看護師資格は昨年度から国家資格化され、今年度が2回目の試験となりました。結果が3月15日に発表され、本校学生の合格率は77.8%でありました。全国合格率は68.6%ですので、比較すると高い数値とはなりましたが、業務独占資格でもあるため来年度以降は100%達成をご報告できるように努力してまいります。

補足情報として、広島県、岡山県の養成校と比較しても本校は最も合格率が高くなりました。こちらは募集にも良い影響があるのではないかと考えております。

質問) 曾根委員

ITパスポート試験の合格率が平均よりも芳しくないのが気になります。

回答) 山下部長

資格の範囲が広がっているという印象です。社会人に向けた内容になってきている傾向があり、学生にとって難しい面が出ています。

提言) 曾根委員

専門学校の合格率は24%弱のため、最低限ここを目標に頑張ってくれればと期待します。また、ビジネス文書検定2級の合格率も気になる場所なので、今後の向上を期待しています。

8. 保護者アンケートの集計資料

本来であれば昨年度との対比ができるようになっていたことが望ましいですが、そうならわず少し見辛い資料となっております。大変申し訳ございません。次年度に向けての改善点とさせていただきます。

今年度のアンケートは合計197通回収することができました。結果の確認をさせていただきます。まず、①～④についてですが、こちらは保護者の方々からの目線で授業がどう見えているかを確認しているものです。すべての項目において90%近くの方に概ねできているという評価(AまたはB評価)がいただけていますが、残り数%はそうではない評価(CまたはD評価)になっています。こちらの意見を十分精査し、教職員に落とし込みをしていくことで改善に繋げてまいります。

続いて⑤、⑥については学校からの発信が保護者に届いているかの判定です。こちらは担任のやり方によって差異が生じてくる内容となっております。学科毎の数値がわからないため評価が難しいところとなっております。

⑦～⑭については概ね良い評価をいただけており、学校としての取り組みが一定の評価を受けていると感じております。

最後に⑮についてですが、こちらは本校に入学させて良かったかどうかという重要な評価だと考えている部分になります。90%を超える方に入学させて良かったという評価(AまたはB評価)をいただけております。昨年度は90%を切っていたため、比較して良くなっているという意味でうれしく思っております。

質問) 曾根委員

Cから下(C、D、記入なし)の評価がネガティブなものであると想定すると、⑥に至っては30%を超える方が低評価をしたということになるかと思えます。こちらの理由としてはどうお考えですか。

回答) 山下部長

学内イベントの発信は行っているため、そちらを評価していただけた保護者の方は良い評価をくださ

っていると思っています。逆に、普段の授業の様子などは発信していないため、その部分で評価が低くなった可能性が高いのではないかと考えます。

意見) 曾根委員

各項目の中ではどうしても目立ってしまっているので、ここが良くなれば総合的な評価も上がってくると思います。

質問) 山下部長

ありがとうございます。逆に保護者の方からの目線としてどういう情報が欲しいかなどのご意見はございますでしょうか。

回答) 曾根委員

私自身も家族が通っている状況ですが、学校での様子は本人から聞くしかない状況ですので、どのような情報であっても学校から発信されれば保護者として様々なことを知ることができ、良いのではないかと思います。

意見) 信岡統括副校長

ありがとうございます。我々学校が今後すべきこととして、学科毎の集計を考えております。情報発信についてもそうですが、学科毎での課題を明確化し、取り組んでいこうと思います。

質問) 天野委員

以前には学級新聞があったと思いますが、今もあるのでしょうか。

回答) 山下部長

今も学園新聞という形で存続しています。ただ、以前のような紙媒体ではなく、内容についても学園全体でのニュースが主のため、学生個人の情報は非常に少なくなっています。学科によっては担任が学科だよりという形で作成しているものはあります。こちらを全体に波及させていければと思っています。

質問) 天野委員

保護者の方が参加するような参観日の開催はないのでしょうか。

回答) 山下部長

検討はしておりますが、コロナの影響によりなかなか実施できていません。来年度以降は再開する予定としております。

似たような取り組みとして、今年度は授業公開日を設けました。日程を決め、保護者の方が授業見学をしていただけるようにしましたが、平日開催ということもあってか参加数が少なくなっていました。

意見) 田島委員

高校に所属していたときの感覚として、保護者アンケートの意見に左右されすぎるのは良くないと感じていました。いただいた結果としてしっかりと検討しなければいけませんが、そこにばかり目がいかってしまうと本質を見誤る可能性があると思います。あくまで参考資料として活用されることをお勧めします。

意見) 森島委員

質問内容を考え直してみるのも良いかもしれません。満足度を尋ねる質問にするのか、改善のための要素を抽出する質問にするか考えた上で質問の構成を考えていくのも良いと思います。質問の方向性を逆にしてみるなど、聞き方を変えてみれば見えてくるものが違ってくると思います。

意見) 信岡統括副校長

いただいた意見を受けて、今後は保護者アンケートの結果を担任が総括していくことも良いではないかと考えております。集計した結果を受けて、担任がどのように感じそれを今後活かしていくかを検討していきたいと思っております。

9. 就職内定状況

就職希望者は100%就職達成を実現しました。その中でも、業界内定率は8割を超え、地元内定率（岡山市内、広島市内を含む）も8割を超えています。

また、公務員学科では41名中28名が公務員内定をいただきました。進級となっているものは2年目を公務員ビジネス学科として期間延長し学んでいくこととなります。

内定企業については資料2枚目に添付しておりますが、ゲームクリエイター学科、マンガ・イラスト学科は業種として地元就職が難しいという結果になりました。就職部職員とも話し合いを行い、首都圏でチャレンジできる企業を増やしていくよう取り組んでまいります。

これに関連してマンガ・イラスト学科の就職先企業名としてWEBTOONという表記がございますが、こちらはネット上でのマンガ作成ということになります。様々な担当に分かれて分業制で一つの作品を作り上げていくという形態で、本校学生の中でも就職希望が増加してきております。

意見) 信岡統括副校長

WEBTOONという表記は一般には認知されていないため、保護者の方が見て分かるように検討していくべきです。ただ、業界的には広く知れ渡っているため、学生にも同様の状況ではあります。学生に対する発信と保護者に対しての発信で使い分けをしていく必要があるため、就職部とも検討し、記載表現を工夫していきます。

10. 自己評価結果の説明・報告（自己評価報告書参照）

当校の「教育理念」、「目的」及び「令和4年度の目標と計画」について説明。各自己評価項目について「評価結果（総括）」、「取組状況とその分析」、「今後の改善方策等」について報告。

各評価項目について、「A」十分である 「B」おおむね十分である 「C」やや不十分である 「D」不十分である の4段階にて評価。

・自己評価で×を記載している項目の説明

- ・3-11-d 県内の他の専修学校・各種学校と協力・連携した教育を行っていますか

昨年度も×としましたが、今年度も×としております。行政等を介して関わる機会はあるのですが、直接的な協力・連携については実施できていないため×評価としました。

- ・5-2-c より高度な学習・研究ができるよう大学等との併修または接続が可能な体制等を取っていますか
昨年度と状況は変化していません。

- ・5-11-a 資格、検定等不合格者に対する対策を講じていますか

昨年度と状況は変化していません。

本来学校として組織化して支援することが求められるところではありますが、現状は学科単位に留まっています。資格、検定等の不合格者に対する対策は担任レベルでの支援はしていますが、学校レベルでの支援体制は整っていない状況です。

- ・5-12-a 大学等卒業者の入学に際し、入学前の履修に関しての取扱いを学則・細則に規定し、適切に認定していますか

こちら昨年と状況は変化ありません。

資料として日本経済新聞の電子版を添付していますが、こちらは専門学校の制度改革として国が検討しているものです。2026年度から専門学校でも単位制を取り入れていこうとしており、大学の履修に合わせて調整していくことになります。本校としてもこの動きをしっかりと認識し、教職員にも理解を促し、準備を進めてまいります。

- ・10-4-a 県専各連合会の若年者職業意識涵養事業（県の委託事業）に積極的に参加していますか

昨年度と状況変化はありません。

高等学校と直接つながりを持ち、出張授業などによって職業教育は行っていますが、県の委託事業として参加はできていない状況です。

- ・総括

部分的にできていないことはありますが、全体的な評価としてはA評価とさせていただきました。

最後の目標達成状況ですが、入学予定数は222名で、入学受け入れ目標の273名に遠く及んでいません。

こちらは、コンピューター系と公務員系で大きく数字を落としていることが大きな要因です。その理由としてはコンピューター系に関しては、高校生の就職状況が好調であることが挙げられます。こちらは、就職後の立場に変化が生じる可能性を伝え、進学の特長を伝えていくことで募集に繋げてまいります。

公務員学科については全国的に募集が低調で、本校もそれに伴って減少しているといった状況です。

また、退学率4.9%は目標とする3%を上回っています。学生の個々の状況が異なり、担任のみでの対応では限界があるため、カウンセラーとも協力しながら改善をしていきます。

今後は入学者数を増やすためにも、それぞれの学科を説明するツールや内容を精査し、進学に対して興味を持ってもらうための取り組みを行っていきます。また、高校生は進路決定の際に興味のある学校へ訪れる回数が減っているという統計があります。本校としては、一度の来校で決定できるように取り組んでいく工夫を行っていきます。

質問) 曾根委員

公務員学科が全国的に不人気とのことでしたが、それはどういった理由でしょうか。

回答) 山下部長

これまでは公務員は安定職というイメージで人気がありましたが、様々な報道により公務員が大変だというイメージがついてしまっているのではないかと推察しています。大変な職業にわざわざ就職する必要はないと避けられているのではないのでしょうか。

意見・質問) 曾根委員

他市町を含めて志望者が減少し、募集のハードルを下げているような状況です。

こちらはなかなか難しい問題で、今後どのように推移するのかを見ていく必要があると思います。

話が変わりますが、授業についての意見です。教員が突然休みになり、午前中に当日授業が半日になったと伝えられるような状況がありました。人手不足は十分理解できますが、授業振替等もう少し柔軟に対応できないのでしょうか。

回答) 山下部長

Google クラウドの運用やGメール等で情報発信をしているが、なかなか伝わらないこともあり、学校に来てから伝わるようなこともありました。また、朝学校に来てからの対応も改善の必要性があると感じ

じています。できるだけ迅速な情報伝達も含めて努力してまいります。
今回いただいたご意見をもとに次年度改善につなげてまいります。

以上を持ちまして令和5年度穴吹ビジネス専門学校学校関係者評価委員会を終了します。
貴重なご意見を賜り誠にありがとうございました。これからも皆様のご期待に添えますよう、
教職員一同、日々努力してまいりますのでよろしくお願い申し上げます。

以 上